

令和8年度 部活動地域展開に関するアンケート結果と考察（中学校1年生）

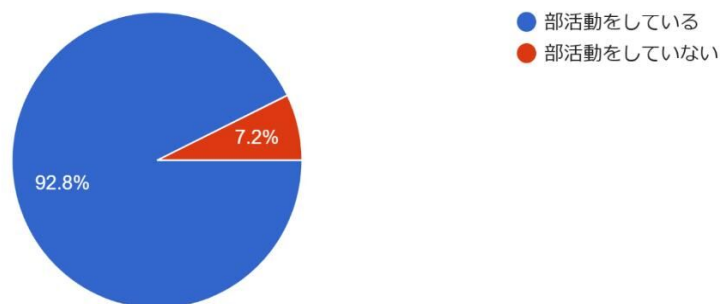
実施日 令和8年7月

【市内中学校1年生全生徒：864人 回答数：705人 回答率：81.6%】

1. 中学1年生の部活動の加入状況

Q. あなたは学校の部活動をしていますか？

〈回答 705 件〉

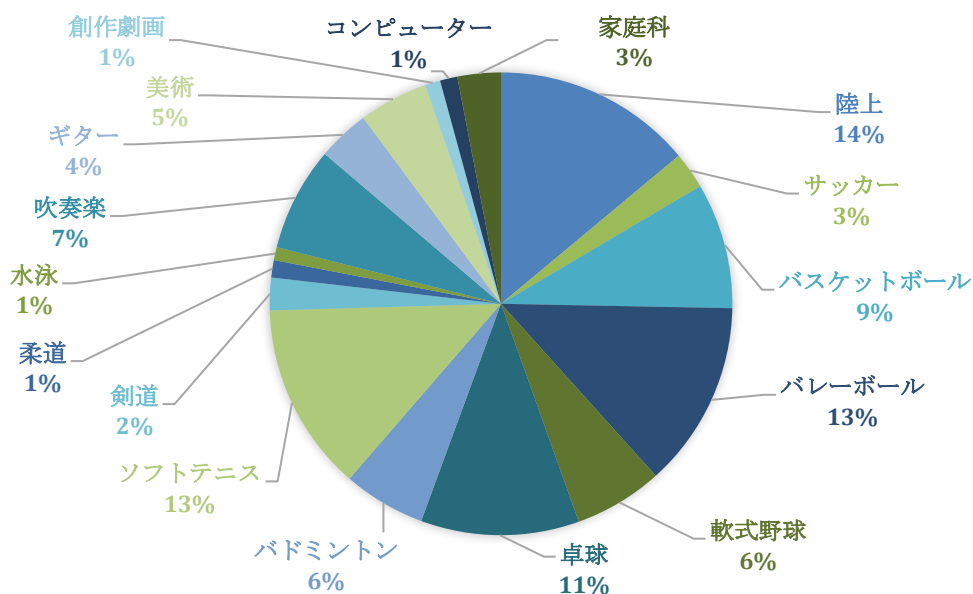


今回のアンケートでは、中学校の部活動に参加している人数が92.8%で655人となっているが、5月に実施した市内全体の部活動参加率調査では、市内中学校全生徒の部活動参加率は84.8%だったため、今回のアンケートでは中学校1年生を対象としていることや回答率が81.6%と全員の回答ではないため誤差がある。ただし、どちらの調査においても中学校の部活動の参加率は高く、学校部活動の意義や必要性が高いことが伺える。

2. 中学校1年生の部活動の入部種目状況

Q. あなたの所属している部活動は何ですか？

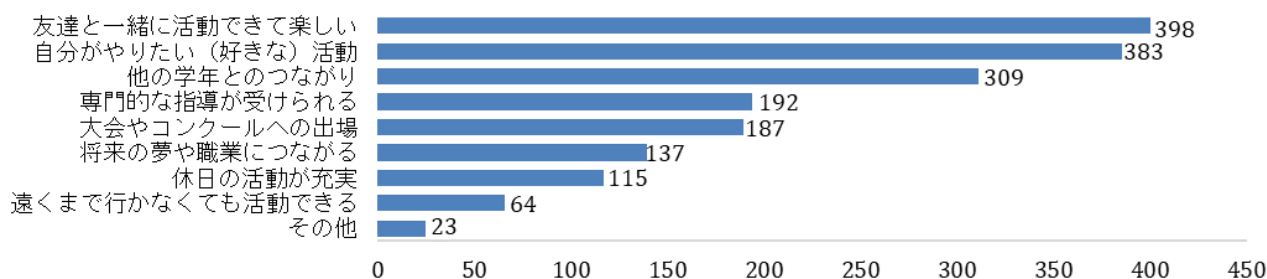
〈回答 660 件〉



運動部活動では、陸上92人（14%）、ソフトテニス87人（13%）、バレーボール86人（11.1%）、卓球73人（11%）と人数が多いが、バレーボール部では男子は、鎌ヶ谷中学校、第二中学校、第五中学校のみとなっているため、第三中学校や第四中学校の生徒は現在バレーボール部には入部できない。また、一方で、サッカー17人（3%）のみであるが、市内すべての中学校にサッカー部があるため人数が足りていない現状がある。地域クラブ活動を創設するうえで大きな課題となるのが「地域クラブ総数」であるため、各種目において地域クラブ数を的確に見極めて設置する必要がある。

3. 中学校部活動に入部した理由

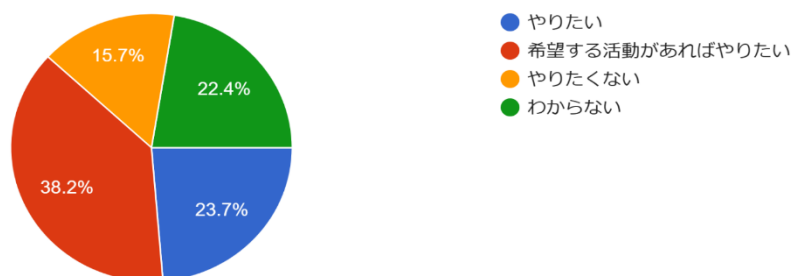
Q. あなたが部活動をしている理由を教えてください。（複数回答可） 〈回答 660 件〉



部活動をしている理由で最も多かったのは、『友達と一緒に活動できて楽しい 398 人』や『自分がやりたい（好きな）活動 383 人』であった。運動活動においても文化活動においても、学校部活動の根源は『楽しい活動』であることが前提にあげられる。学校部活動が地域クラブ活動へ展開しても、これまでの学校部活動が担ってきたものを継承し、より子供たちにとって魅力的な活動となる必要がある。

4. 部活動地域展開後の休日の活動について

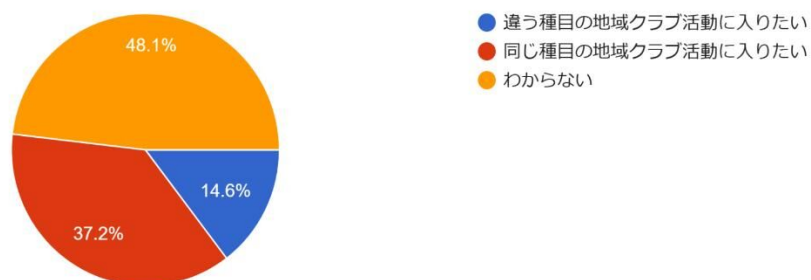
Q. 今後、休日の部活動がなくなった場合に、運動活動や文化活動を休日にやりたいと思いますか？ 〈回答 711 件〉



学校部活動から地域クラブ活動へと展開しても、『やりたいと回答した生徒 167 人（23.7%）』『希望する活動があればやりたいと回答した生徒 269 人（38.2%）』となっており、地域クラブ活動展開後も活動を続けていきたい意思を持っている生徒は合わせて 436 人（61.9%）となっている。『わからないと回答した人数 110 人（15.7%）』おり、今後の地域クラブ活動のあり方次第では多くの生徒が地域クラブ活動への参加を検討していることがわかった。

5. 地域クラブ活動になった際の選択肢

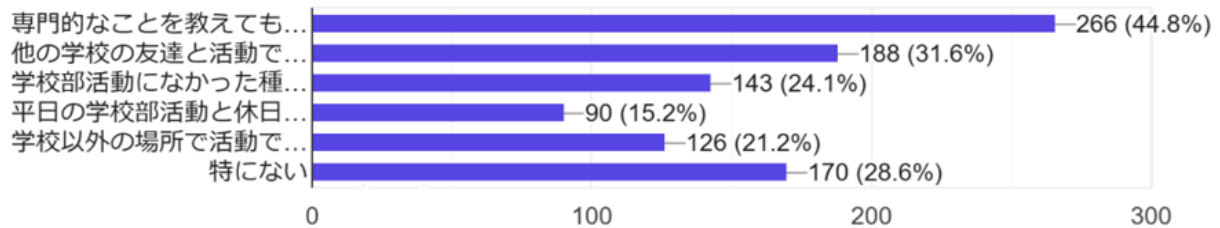
Q. 違う種目の休日運動クラブ活動や休日文化クラブ活動に入りたいですか？ 〈回答 594 件〉



これまでの学校部活動では、平日も休日も同じ活動を行うことが必然だったが、地域クラブ活動のメリットの一つに平日の部活動と違う種目に取り組めることがあげられる。回答結果からも『違う種目の地域クラブ活動に入りたい 89 人（14.6%）』で一定数いるが、『わからない 287 人（48.1%）』との回答が 5 割程いることから、現在の発信している情報だけでは決められていないことがわかり、今後も部活動地域展開に関する情報を周知し、自分自身で選択できる環境を整えていく必要がある。

6. 地域クラブ活動へと展開することで期待すること（環境や内容等）

Q. 休日に部活動ではない、運動クラブ活動や文化クラブ活動に参加するとき、どのような環境や内容だと嬉しいですか？（複数回答可）〈回答 581 件〉



学校部活動が地域クラブ活動へと展開することで、生徒が環境や内容面で期待することとして、『専門的なことを教えてもらえる 266 人（44.8%）』、『他の学校の友達と活動できる 188 人（31.6%）』、『学校部活動になかった種目に参加できる 143 人（24.1%）』となっている。これまでより専門的な指導を受けられることへの期待が高いことが伺える。また、学校間を超えたつながりにも期待しており、学校部活動ではなかった地域クラブ活動への期待が伺える。さらに、これまでの学校部活動にはなかった種目への参加を希望する割合も高く、新たな種目に挑戦できる環境づくりが必要である。

7 休日に運動活動や文化活動をやりたい・やりたくない理由

○やりたい理由

- ・活動が楽しい
- ・大会で勝ちたい
- ・賞をとりたい
- ・様々なことを学べる
- ・技術の向上
- ・できることが増える
- ・平日よりも長く活動できる
- ・新たな発見がある
- ・先輩への憧れ
- ・家にいてもやることがない
- ・家にいると運動不足になる
- ・家でできないことができる
- ・土日休むとだらけてしまう
- ・強制力があるから
- ・平日にはできない練習ができる
- ・友達に会える
- ・友人関係が広がる
- ・友達との協力
- ・講師の先生が来てくれる
- ・学年以外の先輩や後輩と仲良くなれる
- ・小学校の時から続けている
- ・自分の成長
- ・体力の向上
- ・健康になる
- ・内申点があがる
- ・運動習慣が身につく

●やりたくない理由

- ・楽しくない（面白くない）
- ・めんどくさい
- ・友達と遊んでいたほうが楽しい
- ・疲れる
- ・自分が休憩できる時間がほしい
- ・体を休めたい
- ・休日ぐらい休みたい
- ・睡眠時間が減る
- ・他に塾等の習い事がある
- ・距離が遠い
- ・勉強に時間を使いたい
- ・時間を縛られたくない
- ・ゲームをしていたい
- ・暑い中または寒い中活動したくない

小学校の調査結果と近い回答結果であった。休日に運動活動や文化活動をやりたい理由では、「楽しい」や「好き」など、その活動に興味・関心が高く、休日も継続して行いたいという理由が多かった。また、「技能の向上」や「体力の向上」など、自身を高める活動や、「将来につながる」や「経験を積む」など今後の成長につながる理由も多くあがった。さらには、「友達と交流」や「友達が増える」など友人関係に関する理由も見られた。一方で、やりたくない理由では、「疲れる」や「休みたい」など、日々の学校生活での疲労感、「塾がある」や「他に習い事」があるなどの多忙感を感じている理由も多くあがっていた。また、「自分の時間が削られる」や「ゲームがしたい」など、自分の時間を確保したい理由なども見られた。

8. 現在の部活動にはないがやってみたい種目

<運動活動>

- ・バレーボール ・バドミントン ・ダンス ・水泳 ・ドッジボール ・硬式テニス
- ・硬式野球 ・器械体操 ・ゴルフ ・弓道 ・ソフトボール ・空手 ・テコンドー
- ・ハンドボール ・ボクシング ・フットサル ・ラグビー ・3x3 ・相撲 ・モルック
- ・ボッチャ ・自転車 ・スケートボード ・アーチェリー ・クライミング ・ライフル射撃
- ・ラクロス ・少林寺拳法 ・合気道 ・登山 ・フィギュアスケート ・スノーボード

<文化活動>

- ・ゲーム ・コンピューター（プログラミング） ・書道 ・軽音楽 ・合唱 ・イラスト（漫画）
- ・管弦楽器 ・演劇 ・料理 ・理科（科学） ・園芸 ・華道 ・将棋 ・オセロ ・かるた
- ・写真 ・工作

現在、男子バレーボール部やバドミントン部のない学校の生徒がやってみたい種目にあげている。また、運動活動ではダンスと水泳、ドッジボールなどが多く、文化活動ではゲームやコンピューター（プログラミング）などが多くあがっている。また、ダンスは、これまでの学校部活動にはなく、競技人口が高まっており人気の活動である。

文化活動でも、吹奏楽ではない軽音楽や合唱などの音楽活動もあがっている。ゲームやプログラミングをやりたいと希望する声も多くあがっている。新設する地域クラブ活動については、指導者の確保や活動場所など課題があるため、慎重に協議していく必要がある。

9. まとめ

今回のアンケート結果から、生徒が部活動を行う主な理由は、「友達と一緒に活動できて楽しい」「他の学年の人たちとのつながりができる」といった人間関係を重視する側面と、「自分がやりたい活動がある」「技術を向上させたい」という自己研鑽の側面の二極化、あるいはその両立が見られました。地域クラブ活動への展開にあたっては、単に競技力を高める場だけでなく、学校の枠を超えた「居場所」としてのコミュニティ機能を維持・強化することが求められます。本市では、学校部活動加入率は8割（本調査では9割だが、未回答の生徒もいるため）を超えており、学校部活動がもつ意義は大変重要であると思います。こうした学校部活動が地域クラブ活動へと展開後も、これまでの学校部活動の教育的意義を継承し、さらなる価値を創出していくことが必要であると考えます。アンケート結果から、部活動の地域展開に対する中学1年生の意識を整理し、以下の4つのポイントで提示します。

1. 休日活動への意向：ニーズの多様化

休日の活動については「希望する活動があればやりたい」という柔軟な姿勢が目立つ一方で、「休日は休みたい」「塾や習い事で忙しい」という意見も一定数存在します。あくまで地域クラブ活動は学校部活動同様、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであることから全員参加を前提とするのではなく、個々のライフスタイルや意欲に合わせて「選択できる」仕組み作りが重要であると考えます。また、地域クラブ活動展開後も、現在の学校部活動ガイドラインに沿って、活動時間及び休養日を設定し、休日の練習3時間程度の活動や週2日（平日1日、休日1日）の休養日を設けるなど、これまでの学校部活動と同様の活動となります。

2. 種目選択の柔軟性：平日と休日の「活動の選択」

国の部活動地域展開ガイドラインには、生徒の個性・得意分野等を尊重し、生徒のニーズに応じた多種多様な体験ができる場であることがあげられています。アンケート結果からも「同じ種目を続けたい」という生徒がいる一方で、「休日は違う種目の地域クラブに入りたい」と考える生徒も多くいました。平日は学校の部活動で既存の種目に組み込み、休日は地域クラブ活動で別のスポーツや文化活動に親しむといった、複数種目への参加を可能にする体制は、生徒の知的好奇心や運動ニーズを広げる大きなチャンスであると考えます。また、これまで通学する学校になかった部活動に組み込みたくてもできなかった種目（バレーボールやバドミントン等）に取り組めるなど種目選択を広げていくことも必要であると考えます。現在、本市の地域展開における運用方法を協議しておりますが、今回のアンケートを十分に鑑み、今後も協議を進めてまいります。

3. 期待される環境：専門性と交流の拡大

地域活動に求める環境として、「専門的なことを教えてもらえる」ことや「他の学校の友達と活動できる」ことが高く支持されています。これまで、学校部活動では専門外の顧問が指導にあたる場合がありましたが、地域展開後は競技経験や指導実績のある指導者の配置を推進していきます。ただし、部活動地域展開は学校部活動の教育的意義を継承し、子供たちのスポーツ・文化芸術活動を継続して実施できる環境を確保していくことが主目的であるため、いわゆる外部クラブ活動とは異なる点について理解を深めていく必要があります。また、これまでの学校部活動は学校単位で行ってまいりましたが、種目によっては他校との合同での活動になることで、交友関係の広がりをポジティブに捉える生徒が多いことも伺いました。これまでの学校部活動から地域クラブ活動へと展開することで、どのように代わっていくのか、今後とも丁寧に説明してまいります。

4. 潜在的な課題：負担感とアクセスの格差

やりたくない理由として「疲れる」「移動が大変」「家族との時間がなくなる」といった現実的な懸念が挙げられています。これまでの学校部活動同様に活動場所は学校施設が中心となります。本市は、中学校ごとの距離は他市に比べ比較的近いこともあり、他校で活動を行う際には安全面に留意し、徒歩や自転車での移動が中心になることが予想されます。地域展開を進める上で、活動場所へのアクセス（遠くないこと）や、短時間で集中して行うなど、心理的・肉体的なハードルを下げる工夫が、参加率を左右するポイントになると考えられます。地域クラブ活動の発足に向けて引き続き、協議を進めてまいります。